

溺愛する米大陸の名火山 「偽妙高」、「偽菱ヶ岳」

南米在住 飯田茂吉（大島区出身）

私は今年上越市に新参入の東頸城大島村葛蒲出身の野人ですが、葛蒲尋常高等小学校を五年終了後、当時高田市は寺町に仮寓し大手町小学校へ転向してきたものです。挙措遅退悉く町場の方には粗野に見えるかして、随分と苛められたものでした。

もつとも、雨降って地固まったか七十年を聞（けみ）した今になって親しく交友して居るのはその苛めた悪運連なのは嬉しい。苛めもしなかったが、よそよそしかった上品な方は今でもなんとなく煙たいですね。

さて、その大島村改め大島区葛蒲が今度同じ上越市になったのだから、日曜にでも訪ねて見て下さい。直江津からR二五三号を真直ぐ南東へ十里、高田からなら大手町からR四〇五号を東進すること

十里、いずれも越後のどん詰まりが葛蒲部落でして、村の背後には野々海岬の溶岩台地が屏風の如く立ちはだかり、その鬱蒼たる樺（ふな）の原生林の向こうに信濃川が峡谷を作って誠に神秘境。西に隣接するは安塚区須川部落、といつてもお分かりになるまいが、一寸小しやれたスキー場のキユウピットバレイと言えば高田の方ならお分かりでしょう。

このキユウピットの倚（よ）る東頸城随一の名山菱ヶ岳（一九二メートル）は高田から見れば菱の如く三角に尖って見えるが、我が葛蒲から見れば、一寸右肩上がりの頂上の平らな溶岩台地なのです。

保倉川の源流は、この菱ヶ岳と野々見峠の深い深い樺の原生林なので、その暗い樺の大木の元には胴回り尺余、漆黒の大蛇（青大将の劫経たもの）や尺余の山

ナメクジが蓋き、小溪には千余の岩魚群という神秘境なのです。

その山麓の我が蘆屋は築後四百年を経てまだ住むに耐えて居るのには我ながら感心して居ります。永禄四年、一五六一年築と言われているが一寸眉唾。但し我が祖父茂勝の言に依れば三百年は確実と言う。裏山の墓地の杉の植林がみな三百年から五百年経っているので丸きり嘘ではあるまい。

今年から大島区の方が管理して呉れているので見に行つてやつて下さい。大島区事務所にお問い合わせ頂ければ時々イベント等やるそうですよ。禿筆渋滞気味に下らぬ私事に亘つて恐縮です。



南米を駆け巡った山師の私が、本来この拙文に云いたかったのは菱ヶ岳と野々海峠を作って居る落岩と火山の事なので。私にとつて菱ヶ岳は東頸城のシンボル、上越のシンボルは妙高、日本のそれは富士山と何時の間にか心の奥深く刷り込まれ牢平たるものになって行つたでしょう。その後私の在る所、常にこの三山に似た火山があつたのです。東シエラマドレの広大な落岩台地。妙高そっくりなメキシコの独立峯、テキラ火山(三〇〇〇メートル)、サンガンゲイ(二二〇〇メートル)、コリマ火山(三九六〇メートル)、バククチン(三一七〇メートル)、富士山より美しいポリビアのサハマ(六二五〇メートル)、チリのアタカマ砂漠に聳えるウワイヤコ(六七五〇メートル)、リベス火山(ポリビア)、タコマ富士等々、有名無名の火山達が故郷の山々(菱ヶ岳、妙高)に代わつて私を五十年に亘つて南米に引きとめたでしょう。

アマゾンの奥地サンタクルスに居を構えても見ましたが、Pseud(偽)・妙高、Pseud(偽)・菱ヶ岳無きが故に長居は出来ませんでした。

今老いて死に場所(倉浦の裏山の墓地)へ戻つて来た老残にも、南米の山々はまだ捨てきれぬトラウマ(Trauma)となつて夜な夜な私をPseud 妙高の世界へ引き引き戻そうとするのです。

実はこれらの名山たちを一つずつ皆さんに紹介したかったので筆を取つたのですが、素人の悲しきイントロの始まりでもう紙数が尽きました。編者のお許しがあれば、又その内にPseud・菱ヶ岳、妙高、富士の紹介をいたしましょう。



溺愛する南米の山々



偽菱ヶ岳



菱ヶ岳